

※スチールバーは、オートクレーブ滅菌なのか？消毒なのか？あくまで現場サイドの観点から、スチールバーは、オートクレーブで腐食する等の声もあり、あえてここでは、オートクレーブ困難なスチールバーに限定してみます。※滅菌か消毒か？は各メーカー様の指示に従ってください。

消毒の場合も消毒効果を求めるにはそれなりに、消毒時間を長くします。長く浸漬すると又“錆びる”といったリスクも伴う場合があります。ファイリオ30とロータスクイーンを洗浄のプロセスに入れる事で、その後の消毒薬で消毒時間も短縮出来る為、このシステムを考案しましたので参考にして下さい。

<サビの原因として想定できる事>

①乾燥させてしまった血液の付着 ②消毒剤又は洗浄液の長時間の浸漬 ③洗浄後、水気による放置等
スチールバーのサビ防止と、感染対策の両面を補う為の考案したシステムです。

<第三者検査機関による試験結果>

芽胞(枯草菌) 10ml中 8,300,000 個に対して ファイリオ30 原液にロータスクイーン混合した洗浄液 10秒浸漬
グルタラル製剤「2.0%」3分間放置 計3分10秒 ※8,300,000 個の芽胞(枯草菌)は全て除去された

①ファイリオ30 原液を処置後のスチールバーにスプレー噴霧し、放置せずにそのまま、
ロータスクイーンをスチールバーにスプレーし※10秒放置 (長く放置するとサビます)

又は、※10秒浸漬させます

②流水下で、ブラッシング等で付着した細かい汚れを取り除き、

③高水準消毒薬：グルタラル製剤かフタラル製剤※3分～5分浸漬 消毒し※よく水洗いします

④サビを防ぐ為に、乾燥 ※アルコールワットで拭き取ります。

※保存する液は、洗浄液でなく 界面活性剤のない 清浄液が望ましい

<上記のように、注意していても 器具にサビが付着してしまった場合？>

サビ落としの“ハイパーメディカルクリーナー”を使ってください。



但し、サビ無いようにしていく方が、無駄なコストもかけずにすみますし、器材も傷めにくくなります。サビの防止を含めた 洗浄～消毒までの上記のシステムを参考に見てみてください。